

山崎豊子 不朽の名作『大地の子』が、ついにコミカライズ！

文藝春秋 digital にて配信スタート!!



■『マンガ 大地の子』2020年4月24日より配信スタート！

2020年より4月24日より『マンガ 大地の子』が、文藝春秋 digital (<https://bungeishunju.com/>、配信元：株式会社文藝春秋、原作：山崎豊子、漫画：かんようこ・株式会社サイドランチ) にて配信スタートします。

1987年5月号から1991年4月号まで月刊『文藝春秋』で連載された、作家・山崎豊子の小説『大地の子』。終戦後に中国に取り残された子どもたち、いわゆる“中国残留孤児”的半生を描いた本作が、約30年の長きを経てオリジナルのコミカライズ作品として鮮やかに蘇ります。



敗戦によって日本から見棄てられ、大切な家族とも生き別れ、中国の人々からは“小日本鬼子”と蔑まれる——。大きな歴史のうねりに飲み込まれた主人公・陸一心（ルーイーシン、日本名：松本勝男）は、二つの祖国に翻弄され、悩み苦しみ、それでも懸命に自らの生き方を探し求めます。その姿は、現代を生きる私達に「国とは何か」「生きるとは何か」という根源的な命題を突きつけてきます。混迷する今だからこそ、世代を超えた多くの方に読んでいただきたい作品です。

<あらすじ>

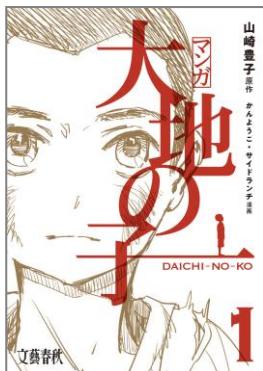
1966年、毛沢東による文化大革命の嵐が吹き荒れる中、一人の男性が冤罪をかけられ壇上に立たされていた。彼の名は陸一心。日本の戦争孤児として中国で育った一心は、小日本鬼子と蔑まれながらも、優しい中国人養父の元で高い教育を受けて育った。その出自からスペイ容疑をかけられ、内蒙ゴの矯正施設に送られるが、あることがきっかけで製鉄所建設という中国の威信をかけた国家プロジェクトに携わることになる。その技術支援を行うのは、彼を棄てたもうひとつの祖国である日本の企業だった——。



『大地の子』は、日本を代表する作家・山崎豊子の徹底した取材と綿密に練られたストーリー構成が織りなす壮大な大河作品です。日本とは、そして中国とは、果たしてどんな国なのか。2022年の日中国交正常化50周年を控え、世界を取り巻く環境が激変する今だからこそ、改めて本作を通して、異なる文化を持つ国との交流、その狭間で生きる個人の在り方について考えるきっかけになればと願っています。

<漫画>

- かんようこ：漫画家、イラストレーター。主な作品に『NEW世界の歴史12 冷戦と冷戦後の世界』(学研プラス)、『マンガでわかる！人工知能AIは人間に何をもたらすのか』(SBクリエイティブ)、『まんがでわかる ヒトは「いじめ」をやめられない』(小学館)他。
- 株式会社サイドランチ：漫画やイラストを中心とした出版編集・制作プロダクション。本作では全体構成やシナリオ、編集等を担当。



<作品概要>

タイトル：『マンガ 大地の子』

配信サイト：文藝春秋 digital <https://bungeishunju.com/>

※2020年4月24日より隔週連載

原作：山崎豊子

漫画：かんようこ・株式会社サイドランチ

配信元：株式会社文藝春秋

※本作に関するお問い合わせは

株式会社サイドランチ (TEL : 03-5256-1003 info@sideranch.co.jp) まで